

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

—昭和五十五年三月—

哲 学

石川 徹 ヒューム哲学における帰納論理と想像力の問題

伊藤 徹 ハイデガーに於ける現有の歴史性について

樫村 晴香 アルチュセールのイデオロギー論

齋藤 稔章 ヘーゲル『精神の現象学』における無限性について

佐 阪 剛 哲学的問について

——ハイデッガーの問に向けて——

薩摩 恭子 スピノザの方法について

村上 元庸 ベルグソンにおける哲学の方法について

鈴木 正弘 身体と意識をめぐって

——メルロ＝ポンティの現象学に基づいて——

考察——

松井 栄元 カントの空間論

大西 憲正 M. Heidegger

——“Sein und Zeit”に於ける自由の問題——

藤野 寛 S・キルケゴール

——『死にいたる病』における自己について——

森 真一 ニーチェのニヒリズムについて

——ニヒリズムは何処から来るか——

谷口 勝昭 ヘーゲル『精神現象学』に於ける一考察

藤川 知規 E・フッサールの現象学的還元について

西洋哲学史

中畑 正志 プラトン『バイドン』におけるヘアイテイア

——としてイデア

山口 真 プラトン『バイドン』のイデア論に関する一

考察

印度哲学史

矢吹 武昭 Āgamaśāstra について

——Vetter 氏の論文をめぐって——

中国哲学史

武田 時昌 黄宗羲『易学象数教训』の研究

心理 学

浅野 英治 文の聴覚的、視覚的、呈示による記憶の差

井手 亘 観察者の被害者に対する評価についての研究

神野啓子 幼児の記憶における体制化に関する一考察
倉持修祥 価格設定実験(協力的な相手からの搾取の罪
の意識)

中西秀彦 説得における脅威と自我関与の影響

星加早苗 幼児の文字獲得について

堀川隆生 青年の自己開放性に影響を与える諸要因

山田恒夫 電撃をうけた経験が後の逃避・回避学習に及
ぼす影響について——Seligman の “learn-
ed helplessness” の検討——

遠藤雅仁 ラットによる Modality の異なる刺激を用い
た二重弁別課題について

工藤俊郎 Dichotic Listening における選択的知覚に
ついでの研究

菅原康二 ラットの辺縁系と中脳網様体への電気刺激が
記憶に及ぼす効果

山崎伸一 描画における指示対象の構造化
——その表現性の獲得について——

野本益生 集団目標達成をばばむ外的誘惑(価格設定実
験)

倫理学

北尾宏之 カントの自律の原理について

田口純 言語とその理解

——E・パンヴェニストにそくして——

西尾公江 「わたし」の構造とその形成
西山均 ヤスバースに於ける「実存的理性」の研究
林修平 生 (Leben) と確信 (Gewissheit)

美学美術史学

岩崎直子 飛鳥・白鳳彫刻の流れ

永井隆則 セザンヌの芸術について

根立研介 神護寺薬師如来立像について

——平安初期木彫成立期の一作例とし
て——

前川陽郁 旋律構造と含意

柳川麻里子 美術による人間形成について

吉岡洋 カントの天才論

川澁武比古 長谷川等伯

——松林図とその周辺——

井上明彦 芸術活動とメルロ・ポンティの現象学

中塚博則 作曲者、再現者、鑑賞者にとって音楽芸術と
は何か?

並木誠士 絵巻物の変遷

——素材と表現方法・画面構成の係わりを
中心にして——

吉田憲司 東アフリカ牧畜社会における造形美術の欠如
について

大塩幸裕 フィードラーの芸術論について

藤井文子 世阿弥の能楽理論における幽文美について

社会学

真田正明 日本芸能史に関する社会学的考察

西川和美 日本の親族類型論から見た鳥取

——漁村の親族関係——

西谷治朗 大衆社会論

野崎健 農民詩の社会学的研究

前田浩次 婦人の職業労働の問題

増川利博 共同態の諸類型における宗教形態

峯寄恒俊 官僚制の一考察

山下雅之 社会科学の方法論

飯島義裕 青年期の自殺について

——京都大学学生の場合——

栗本英世 エヴァンス・プリチャードと英国機能主義

人類学

坂上達夫 儀礼過程の考察

——V. Turner のロムニタス論について——

進藤雄三 ウェーバーとパーソンズにおける「価値」の

位置

本田栄 スマルサーの集合行動論の考察

——その分析枠組の検討——

山口誠 自殺の社会統計的研究

横川理彦 パーソンズの社会化論

——エディブス期の諸問題——

郷原秀明 都市分析の視点

深川和久 レヴィ・ロストロス方法論の基礎

小林美寿夫 レベリング論

——Gore 編 The labeling of deviance

を中心として——

水野博之 社会と個人

——その同時性の問題——

宗教学

谷口静浩 ハイデッガーにおける「世界」について

戸川正憲 シモース・ヴェイユにおける「脱創造」の

問題

平尾真由美 カントに於ける道徳の最高原理とその可能

根拠について

鷲見勝由 「ざとり」について

——桐山靖雄師の場合——

仏教

加藤長生 理趣経の清浄句について

河野智子 スタナーマ王本生について

下泉全晔 sadhana-mala について

基督教学

インド哲学史

小島 信子 パウル・ティリッヒ研究

頓宮 勝 Bhaktirasa について

——「相関」の概念を中心として——

——Bhaktirasamritasindhu の Dakṣiṇavi-

京都大学大学院文学研究科（哲学系）

修士課程修了論文題目

西洋哲学史

——昭和五十五年三月——

哲学

犬竹 正幸 カント『純粹理性批判』における認識と時間

加藤 雅人 トマスにおける命題の真理について

川添 信介 デカルトの自然認識

中村 治 トマスアクイナスにおける認識の構造

須藤 訓任 世界肯定と時間の様相

山口 明 革命と哲学

——ニーチェの永劫回帰思想をめぐる——

——『精神現象学』に於けるフランス革命の経験——

清水 大介 ハイデッガーの有論的差別について

高橋 憲雄 プラトンに於ける〈仮説〉（ヒュポテシス）の方法

——準備的考察——

松田 直成 フッサールにおける「意識の志向的分析」

鼓 澄治 若きヘーゲルにおける絶対者の認識について

——『論理学研究』第二巻第五研究、および『イデー』I、への展望——

安孫子 信 デカルトの懐疑について

園方 栄二 プラトンに於ける感覚的世界の分析

小玉 知史 ヘーゲル『精神現象学』の課題

中島 秀憲 ヘーゲルの宗教

——主客の同一性をめぐって——

——『精神現象学』における宗教の考察——

吉田 修 根拠への問

佐藤 幸治 キェルケゴールにおける同時性の問題

——カント哲学の生成と構造——

仏 教 学

五島清隆 “Brahmavisesaciniparipiccha” に ついて

キリスト教学

掛川富康 K・バルトに於ける教義と解釈の問題

心 理 学

石井 徹 二つの self-consciousness 及びその責任の
帰属に及ぼす影響について

宮原清水 Cyclofusion における vertical disparity
cue に ついて

山口正弘 ラットの視覚行動における上丘損傷の効果

山下博志 DRLスケジュールにおけるハトの行動
—— multiple schedule による分析 ——

社 会 学

中河伸俊 逸脱行動の統制理論

美学美術史学

岡田温司 変革期のフイレンツェ絵画
——その生成と連関——

林 愛子 芸術体験の現象学的考察

松本 透 アロイス・リーグルの芸術意志説について

斎藤裕司 カントにおける構想力

〔附 記〕

博士課程単位修得者研究論文要旨の提出は、京都大学
大学院文学研究科の規程改正により、昭和五十一年度の
進学者をもって、終了いたしました。

前 号 目 次

現実活動態(下)……………藤澤令夫	——アリストテレスにおける キーネーシス(あるいは運動 の論理)とエネルゲイア)あ るいは活動の論理)との対置 について——
知識学と「弁証法」……………長澤邦彦	——一七九四年の『基礎』を 中心に——
ダルマキールティのアポーハ論……………赤松明彦	

京都大学文学部哲学科講義題目

——昭和五十五年度——

※二回生が履修できる専門科目

〔共〕大学院と共通

〔院〕大学院のみ

哲 学

西洋哲学史

講義	教授	辻村 公一	※哲学概論	〔共〕	講義	教授	藤沢 令夫	※西洋古代哲学史概説	〔共〕
研究	教授	辻村 公一	ハイデッガーの思索	〔共〕	研究	教授	藤沢 令夫	※西洋中世哲学史概説	〔共〕
助教授	竹市 明弘	根源的・日常的の現象学	〔共〕	教授	酒井 修	※西洋近世哲学史概説	〔共〕	プラトン後期認識論の問題	〔共〕
講師	梅原 猛	日本思想史(倫理学、宗教学、仏教学と共通)	〔共〕	基礎物理	佐藤 文隆	現代物理学の展開	〔共〕	創造の問題	〔共〕
講師	内井 惣七	様相論理学研究	〔共〕	研究	山田 晶	現代物理学の展開	〔共〕	現代物理学の展開	〔共〕
演習Ⅰ教授	辻村 公一	Hegel: Differenz des Fichte'schen und Schelling'schen Systems der Philosophie	〔共〕	講師	山村 敬	東方ビザンチンの哲学と神学	〔共〕	東方ビザンチンの哲学と神学	〔共〕
演習	教養部 外人教師	Eberhard Scheffele	Derselbe: Glauben und Wissen	講師	金子 晴勇	論理学特講	〔共〕	論理学特講	〔共〕
講師	井上 庄七	Descartes: Regulae	〔共〕	講師	藤沢 令夫	近代自由思想の源流—エラスムスとルターの論争—(宗教学、基督教と共通)	〔共〕	近代自由思想の源流—エラスムスとルターの論争—(宗教学、基督教と共通)	〔共〕
講師	山形 頼洋	Maine de Biran: De l'aperception immédiate	〔共〕	演習Ⅰ教授	藤沢 令夫	Platon: Timaeus	〔共〕	Platon: Timaeus	〔共〕
				演習Ⅱ教授	藤沢 令夫	Aristoteles: De Caelo B.1~	〔共〕	Aristoteles: De Caelo B.1~	〔共〕
				演習Ⅲ講師	種山 恭子	Plotinos: Enneades V.5 IV.8	〔共〕	Plotinos: Enneades V.5 IV.8	〔共〕

講師 斎藤 義一 Kant: Erste Einleitung in die Kritik der Urteilskraft 〔共〕

演習Ⅱ教授 辻村 公一 哲学の諸問題 〔院〕

演習Ⅲ教授 辻村 公一 Heidegger: Der Ursprung des Kunstwerkes 〔院〕

演習I教授	山田 晶	Augustinus: Confessiones, 第31卷 (前年度〇統キ)	〔共〕	講義	講師 三谷 好憲	William James: The Will to Believe (宗教学へ共通)	〔共〕
演習II教授	山田 晶	Thomas Aquinas: Summa Theol. I, 第19問(前年度〇統キ)	〔共〕	"	講師 山野 耕治	W. Jaeger: Paideia, die Formung des griechischen Menschen	
演習III教授	山田 晶	Thomas Aquinas: Summa Theol. I, 第66問 (前年度〇統キ)	〔共〕	"	助手 今林万里子	Platon: Apologia Socratis (倫理学・大学院・学部と共通)	
演習 人文研究	山下 正男	Johannes Buridanus: Sophismata	〔共〕	研究	教授 酒井 修	芸術の問題と解釈学	〔院〕
"	講師 日下 昭夫	Anselmus: Cur Deus homo (前年度〇統キ)	〔共〕	演習II教授	教授 酒井 修	G.W.F. Hegel: Phänomenologie des Geistes (PhB 版〇414頁へ)	〔院〕
"	講師 小池 三郎	Augustinus: De libero arbitrio, 第2巻 (前年度〇統キ) (基督教学へ共通)	〔共〕	印度哲学史			
"	講師 水田 英美	Thomas Aquinas: De ente et essentia	〔共〕	講義	教授 服部 正明	※インド思想史	
演習I教授	酒井 修	G.W.F. Hegel: Phänomenologie des Geistes (PhB 版〇102頁へ)	〔共〕	研究	教授 服部 正明	諸学派の āman 論	〔共〕
演習	磯江 景孜	I. Kant: Kritik der praktischen Vernunft (PhB 版〇138頁へ)	〔共〕	"	講師 山上 證道	Nyāyabhāṣya の研究	〔共〕
助教養部	磯江 景孜	J.G. Fichte: Reden an die deutsche Nation (Sechste Rede	〔共〕	"	講師 井狩 弥介	ヴェーダ祭式研究 (梵语学梵文学と共通)	〔共〕
助教養部	磯江 景孜	J.G. Fichte: Reden an die deutsche Nation (Sechste Rede	〔共〕	"	講師 原 実	Hinduism の研究 (梵语学梵文学と共通)	〔共〕
助教養部	磯江 景孜	J.G. Fichte: Reden an die deutsche Nation (Sechste Rede	〔共〕	"	講師 矢野 道雄	古典インド文献における夢占 (svapna) の研究 (梵语学梵文学と共通)	〔共〕
助教養部	磯江 景孜	J.G. Fichte: Reden an die deutsche Nation (Sechste Rede	〔共〕	演習	教授 服部 正明	インド哲学史の諸問題	〔共〕

演習 助教授 小林 信彦 サンスクリット文選Ⅰ(仏教学、梵語学梵文学と共通) [共]

講師 徳永 宗雄 *Bhagavadgīta, Purāṇāśāsa-sāṅgraha* (仏教学、梵語学梵文学と共通) [共]

語学 助教授 小林 信彦 ※サンスクリット文法(各学科共通サンスクリット文法と共通) (梵語学梵文学、仏教学、西南アジア史学と共通) [共]

研究 助教授 池田 秀三 ※中国思想史
人文研 助教授 吉川 忠夫 漢・六朝の家訓(東洋史学と共通) [共]

中国哲学史

研究 助教授 池田 秀三 ※中国思想史
人文研 助教授 吉川 忠夫 漢・六朝の家訓(東洋史学と共通) [共]

演習 講師 加地 伸行 経学の諸問題 [共]
教授 湯浅 幸孫 潜研堂文集 [共]
教授 湯浅 幸孫 經義述聞 [共]

人文研 教授 尾崎雄二郎 説文解字注(中国語学中国文学と共通) [共]

助教授 池田 秀三 論衡 [共]

講師 黄 濟 清 古典読解
助手 木下 鉄矢 戴震哲学著作選
教授 湯浅 幸孫 全祖望の学術(前年度の続き)[院]

心理学

講義 教授 本吉 良治 ※心理学概論

教育学部 教授 河合 隼雄 人格心理学(教育学部と共通)

教育学部 教授 坂野 登 (前期)

教育学部 教授 梅本 堯夫 (後期) 教育心理学(教育学部と共通)

研究 教授 平野 俊二 連合学習における強化の機構

教授 作田 啓一 自己と社会(倫理学、社会学と共通) [共]

助教授 中谷 和夫 多変量解析と心理学的方法 [共]

研究 教授 野沢 謙 遺伝学 [共]

講師 生澤 雅夫 実験計画 [共]

講師 北尾 倫彦 記憶学習の機構(教育学部と共通) [共]

講師 梅本 守 Self-stimulation に関する最近の問題点 [共]

講師 三隅二不二 組織・集団心理学(社会学と共通) [共]

講師 牧野 達郎 空間知覚の諸問題 [共]

講師 宮川 知彰 教育と発達(教育学部と共通) [共]

研究	講義	助教授	西谷 裕作	※倫理学概論	助教授	西谷 裕作	精神病理学の諸問題	[共]
		教養部	藤縄 昭					
演習	演習	教授	本吉 良治	心理学演習Ⅱ(現代心理学の基礎的諸問題)	教授	作田 啓一	自己と社会(心理学、社会学と共通)	[共]
		教養部	平野 俊二	心理学演習Ⅰ(J. v. Derskill und G. Krizsat: Streifunge durch die Umwelten von Tieren und Menschen)	人文研	上山 春平	国家について(前年度の続々)	[共]
		倫理学	中島 誠	心理学特殊実験(実験乙)	教養部	有福 孝岳	我と物と世界(前年度の続々)	[共]
				心理学基礎実験(実験甲)	助教授	新田 義弘	現象学の諸問題(前年度の続々)	[共]
研究	講読	助手	岡本 安晴	※統計基礎実習	講師	梅原 猛	日本思想史(哲学、宗教学、仏教学と共通)	[共]
		講師	住田幸次郎	文獻講読	演習Ⅰ教授	森口美都男	Kant: Kritik der reinen Vernunft (A) (前年度の続々、A22 (=B37)より)	[共]
		教授	本吉 良治	オペラント条件づけの諸問題	演習Ⅱ教授	森口美都男	倫理学の諸問題	[共]
					助教授	西谷 裕作	Leibniz: Essais de Théodicée (前年度の続々)	[共]
					演習	西谷 裕作	A. N. Whitehead: Adventures of Ideas (Part IV) (宗教論と共通)	[共]
					講師	深谷 昭三	M. Scheler: Der Formalismus in der Ethik und die materiale Wertethik (前年度の続々)	[共]
					講読	西谷 裕作	K. Löwith: Das Individuum ni	

講義	講師	榎本百合子	der Rolle des Mirmenschen (前年度の続々) II, 2. Teil (共)	助手	定金 計次	Alfred Baumeier; Hegels Aesthetik
講師	講師	榎本百合子	Simone Weil: La Peasantur et la Grace (前年度の続々)(宗教学と共通)	講師	米沢 有恒	Etienne Gilson: Introduction aux arts du beau
助手	助手	今林万里子	Platon: Apologia Socratus (西洋哲学史・学部と共通)	講師	上倉 庸敬	
美学美術史学	講師	吉岡健二郎	※美学概論	講師	中 久郎	※社会学概論
研究	教授	清水 善三	※日本美術史概説	教授	中 久郎	共同性論
教授	教授	吉岡健二郎	様式と構造	教授	宝月 誠	社会的相互作用論
教授	教授	清水 善三	日本上代彫刻史の研究	教授	作田 啓一	自己と社会(心理学、倫理学と共通)
教授	教授	乾 由明	二十世紀初頭の美術	講師	大林 信治	ウェーバーにおける実践と科学の連関の問題
教授	教授	新田 博衛	音楽美学序説	講師	大村 英昭	逸脱の社会学から宗教の社会学へ
教授	講師	西村規矩夫	北方ヨーロッパ絵画史	講師	児玉 昇	民族論
講師	講師	中村 興二	仏画の研究―来迎美術を中心にして―	講師	塩原 勉	集合現象の社会学
講師	講師	川上 涇	中国の絵画	講師	益田 庄三	日本のむらの実証研究
教授	教授	吉岡健二郎	美学美術史学の諸問題	講師	光吉 利之	家族変動論
教授	教授	清水 善三	美術史学の実地指導	講師	三隅二不二	組織・集団心理学(心理学と共通)
教授	教授	清水 善三	美術史学の実地指導	教授	清水 善三	美学美術史学研究の諸問題
教授	教授	清水 善三	美術史学の実地指導	教授	清水 善三	社会学

演習	講師	石田 慶和	親鸞『教行信証』(岩波版、日本思想大系本)	[共]	研究	教授	梶山 雄一	説一切有部の哲学	[共]
"	講師	蘭田 坦	E. Cassirer: Individuum und Kosmos in der Philosophie der Renaissance	[共]	"	講師	梅原 猛	日本思想史(哲学、倫理学、宗教学と共通)	[共]
"	講師	川村 永子	S. Kierkegaard: Abschliessende unwissenschaftliche Nachschrift (前年度の続き)(基督教学と共通)	[共]	演習	講師	戸崎 宏正	仏教認識論研究	[共]
"	講師	三谷 好憲	William James: The Will to Believe (西洋哲学史と共通)	[共]	教授	教授	梶山 雄一	梵語仏典選集	[共]
講読	講師	三谷 好憲	William James: The Will to Believe (西洋哲学史と共通)	[共]	"	教授	大地原 豊	パリー・ブラークリット文選(梵語学梵文学と共通)	[共]
"	講師	氷見 潔	Hegel: Vorlesungen über die Philosophie der Religion(Suhrkamp 版)(前年度S続キ)	[共]	助教授	助教授	小林 信彦	サンスクリット文選I(印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	[共]
"	講師	榎木百合子	Simone Weil: La Pesanteur et la Grâce (前年度の続き)(倫理学と共通)	[共]	助教授	助教授	荒牧 典俊	『臨濟録』	[共]
演習II	助教授	上田 閑照	宗教哲学の諸問題	[院]	助教授	助教授	徳永 宗雄	Suttanipāṭa	[共]
仏教学	助教授	長谷 正当	宗教哲学の諸問題	[院]	助教授	助教授	徳永 宗雄	Bhagavadgītā, Purāṇaśāstra-saṅgraha (印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	[共]
講義	教授	梶山 雄一	※インド仏教思想史		助教授	助教授	御牧 克己	Blo gsar grub mtshah(瑜伽行派章)	[共]
					講師	講師	佐々木恵精	※サンسكريット文法(各学科共通)	
								通サンسكريット文法と共通)	
								(印度哲学史、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通)	
								チベット語(初級)(各学科共通)	
								チベット語と共通)	[共]

基督教学

- 講義 助教授 水垣 涉 ※キリスト教の成立
- 研究 助教授 水垣 涉 信と知 [共]
- 講師 佐藤 吉昭 ラテン教父の諸問題 [共]
- 講師 山村 敬 東方ビザンチンの哲学と神学(西洋哲学史と共通) [共]
- 講師 金子 晴勇 近代自由思想の源流—エラスムスとルターの論争—(西洋哲学史、宗教学と共通) [共]
- 講師 佐藤 泰正 日本近代文学とキリスト教(國語学国文学と共通) [共]
- 演習 助教授 水垣 涉 Origenes: De principis IV [共]
- 講師 秦 剛平 古典ヘブライ語文法および創世記原典の講読と釈義(西南アジア史学と共通) [共]
- 講師 遠藤 彰 ヨハネ福音書原典の講読と釈義 [共]
- 講師 小池 三郎 Augustinus: De libero arbitrio, 第2卷(前年度の続め)(西洋哲学史と共通) [共]
- 講師 川村 永子 S. Kierkegaard: Abschliessende unwissenschaftliche Nachschrift

講師 片柳 栄一 R. Bulmann: Glauben und Verstehen I [共]

会告

このたび、阪本財団から、京都哲学会へ、昭和五十五年度の「哲学研究」刊行のために、多額の補助金を頂戴いたしました。ここに深甚の謝意を表しますとともに、あわせて、会員各位に御報告申し上げます。

京都哲学会

昭和五十五年九月